

1 耐圧防爆構造

容器内に外部の爆発性ガスが侵入して、内部で点火爆発しても損傷を受けることなく耐え、且つ、容器のすべての接合面又は構造上の開口部を通して外部の爆発性雰囲気へ発火を生じることのない防爆構造。

2 油入防爆構造

電気機器及び電気機械器具を構成する部分であって、火花やアークや高温部を絶縁油の中に深く沈めて爆発性ガスの点火源となる恐れのある部分に触れない様に隔離した防爆構造。

3 安全増防爆構造

電気機械器具を構成する部分であって、通常の使用中にはアーク又は火花を発生することのない電気機器で、更に点火源となりにくいように電氣的、機械的、又は熱的に安全性を増加させて、絶縁性能並びに温度上昇による気陰に対して、安全性を高めた防爆構造。

4 内圧防爆構造

電気機器内部に清浄な空気又は不活性ガスの保護気体を圧入または封入して内部圧力を周囲の圧力より高くし、機器内部に爆発性ガスの侵入を防止する防爆構造。

5 本質安全防爆構造

電気機器の通常な状態だけでなく、予想される故障状態において、電気回路に発生する電気火花及び高温部が爆発性ガスの点火源にならない防爆構造。

6 防爆構造の記号

防爆構造の種類	Ex2015	構造規格(2006)
耐圧防爆構造	d	d
油入防爆構造	o	o
安全増防爆構造	e	e
内圧防爆構造	f	f
本質安全防爆構造	ia,又はib	i

7 温度上昇限度(防爆指針:2123)

単位:°C

発火度	G1	G2	G3	G4	G5
温度上昇限度	320	200	120	70	40

8 グループ II の電気機器の最高表面温度(Ex2015 第1編 5.3.2.2)

単位:°C

温度等級	T1	T2	T3	T4	T5	T6
最高表面温度	450	300	200	135	100	85